

第 23 回教育課程編成委員会

日時：令和 6 年 8 月 22 日（水）14：00～15：00

場所：下関福祉専門学校 3 階

1. 開会

出席者：早川 弘之（社会福祉法人 下関社会福祉協議会 在宅福祉課長）
富田 陽治（一般社団法人 山口県介護福祉士会 理事 下関ブロック長）
竹永 裕子（社会福祉法人菊水会 福祉相談室長）
関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）
藤岡 恵子（下関福祉専門学校 教務主任）
長本 幸子（下関福祉専門学校 専任教員）
安田 富美代（下関福祉専門学校 専任教員）
木村 薫（下関福祉専門学校 事務局） 敬称略

挨拶：下関福祉専門学校 校長

場 所：下関福祉専門学校 3 階

卒業、入学の状況報告

令和 5 年度入学生 12 名（内留学生 6 名）

令和 6 年度入学生 28 名（内留学生 4 名）

※上記留学生はすべてミャンマーの留学生

（学校長挨拶）

現在の留学生は全てミャンマーからの学生である。以前はベトナムからの留学生も受け入れていたが、ベトナムからの留学生は一つの情報でつながっているようで、良い条件の働き口があるとすぐにそちらに移ってしまう傾向がある。その点、ミャンマーの留学生はしっかりと頑張ってくれている。

今年の下関福祉専門学校の入学者の目標は 25 名である。福祉の多様化に対応できる介護福祉士を育成し地域社会の福祉を守っていきたい。

介護福祉士国家試験について制度変更の予定もあり、養成校として今いる学生をしっかりと現場に輩出していきたいと考えている。

2. 委員の出席状況の確認

全員出席の確認をする。

3. 卒業者及び在学者状況報告

別紙報告書に基づいて報告をする。

4. 今年度の教育目標

① 常に尊厳の保持と倫理を意識し、自律した介護サービスを提供できる知識・技術を養うことができる

1 学年：介護における尊厳の保持と倫理とは、何かを理解することができる。

2 学年：介護実践において尊厳と倫理を意識した言葉遣い、態度で自立支援を行うことができる。

② チームケアを行うための自分の役割を自覚し、チームケアに貢献できる。

1 学年：介護実践での自分の役割を理解し、TPO に合わせたコミュニケーションをとることができる。

2 学年：チームケアに欠かせない記録等において、報告、連絡、相談ができる。

③ 生活課題の明確化において、ADL だけに注目するのではなく、利用者の望む生活に焦点をあてることができる。

1 学年：介護サービスを受け生活をしている利用者の、障害や疾病による生活のしにくさを理解することができる。

2 学年：本人の望む生活の構築に基づいた生活課題を、明確にすることができる。

教育目標と評価を読み上げ後、質疑応答

教育目標①に対して

◇A 委員 現場ではコミュニケーション、チームケアが重要。報告・連絡・相談などは、今の時代はより大切になってきている。SNS 発信なども必須。

◇B 委員 尊厳の保持とは、敬意を払う事。「今日の日本を支えてきた人たちである」ということを忘れてはならない。

◇C 委員 言葉遣いは大切。認知症の方が相手だと、つい敬語がため口になりがちだが、現場で流されずにしっかりとした言葉遣いを身につけて欲しい。
ただ、認知症の方には短い単語の方が伝わりやすく、だんだんと口調が変わってしまう状況はある。

◇一年担任より

私自身の考える「尊厳」とは自分がされて嫌なことは絶対にしない、ということ。自分の大切な人として対応するように、と伝えていきたい。

◇二年担任より

介護を「提供してあげている」というような感覚を持つ学生が多いように感じる。記録物も「してあげた」という表現になることがあり、「それは違う」「言葉遣いはきちんとしなければいけない」という思いから今回特に目標にかかげた。

教育目標②に対して

◇一年担任より

介護サービスというからには介護はサービス業である。丁寧な言葉遣いは当たり前であり、そこを分かった上で自分の役割を知ることから始めたい。まずは実習先でも学校でも「何のためにこれをしているのか」ということを把握することが大切と考え、目標としたところである。

◇A 委員 「お世話をさせて頂いている」という考えを持つことから教えないといけない。

◇二年担任より

記録物について、記録を取ることはチームケアの基本でもあるので、日記でない、誰が見ても分かるような記録の取れる指導をしていきたいと考えている。報告・連絡・相談の大切さを伝えたい。

◇B 委員 提出の必要な書類は実際に山ほどある。チームケアをしていく中で情報の共有は特に大事なことだと考えている。提出物、記録物はしっかりと正確に早く、学生さんには難しいことかもしれないが、重要性をしっかりと自覚して欲しいと思う。

◇C 委員 第三者が見ても分かるような記録を取ることは、現場でも難しいと感じている。

◇B 委員 現場でIT化を進めている。PCに簡単に打ち込むだけで済むような場面も増えた。IT化で少しでも楽に、と考えている。

◇A 委員 i-Padを使用しているが、ひな形もあり手書きよりはやりやすくなった。写真も撮れるし便利。まだ紙ベースで記録しているところはありますか？

◇C 委員 まだ紙を使っている。事業規模が大きいため一度に変えることが難しい現状がある。

◇B 委員 職員の高齢化もあり、紙ベースの方が楽という人もいる。

◇C 委員 留学生に関していえば、書くことが難しい場合でも、PCである程度ひな形があるか、あるいは選択式で選ぶ形の方がやりやすいのかもしれない。

教育目標③に対して

◇一年担任より

クラスには日本人学生が24人いるが、祖父母と同居しているなど身近に年配者がいる状況にあるのは4人のみである。利用者様の生活のしにくさをまずは理解することから始めたいと考えている。

◇A 委員 認知症の方に対しては、「座って」「立って」などの短い言葉の方が分かりやすいかもしれないが、その言い方には注意を払わなければならない。

◇B 委員 「いかにその人の立場に近づくことができるか」、を考えることが大切。そうすることで解決により近づける。利用者様の障害に対する理解が大切だと思う。

- ◇C委員 福祉への理解がない方が現場に多いと、一から教えないといけない。学生のうちにしっかりとこういうことを学べるのはとても良い事だと思う。
- ◇二年担任より
「○○ができない可哀そうな方」という目線で「○○してあげる」というような関わり方をしてしまってはダメ。利用者様の気持ちに、目線に立った介護するということが大切だと伝えていきたい。
- ◇A委員 その方のできることに着目し、モニタリングし、その方の立場に立って「どうして欲しいと思っているのか」に寄り添うことが大事。
- ◇B委員 手を差し伸べたいところをぐっとこらえて、自立を支援する、という共通認識を持って介護にあたることが大切だと思う。
- ◇C委員 話ができない方（寝たきりの方）の生活課題にどう向き合っていくか、難しく感じている。
- ◇教員より 現在、介護の現場で働いている卒業生の話では、「その人、その人で全く違う介護をするから、介護の仕事はおもしろい」と聞いた。実際どうか？
- ◇B委員 正解は分からないので、よりベターな方法を常に見い出していけないといけない。そこをおもしろいと感じれるか。
- ◇二年担任より
「話ができない方に対しても色々なアプローチがありやりがいがある」、と学生に伝えても、学生の希望は「話ができる方、コミュニケーションができる方」であるような状況である。

5. 今年度の福祉と文化

別紙報告書に基づいて報告をする。

- ◇教務主任より
令和5年度福祉と文化特別授業実績についてご意見があるか。
学生と介護職員とのグループワークに関して特別授業として前回提案をしていただいたが、その点についてはどうか？
似たような内容としては現在「卒業生との交流」があり、卒業生からの講話の後に質疑応答の時間もあるが、学生からはあまり質問が飛ばないような状況。
グループワークに関して、学生は現在全40名であり、5人ずつのグループに分けても8名の介護職員の方が必要となるが大丈夫か？
- ◇教員より 日程は平日になるし、ご迷惑でないか？
- ◇A委員 (主催しているグループワークのお知らせを配布され)
各施設の介護職員の交流を兼ねての研修会を予定しているが、現状を知ることができるし、参加されてはどうか？
(年一回の開催、締切は過ぎているが大丈夫とのこと)

◇教務主任より

夏休み中なので学生の参加は難しいかもしれない。

◇教員より 「かっこいいじゃん介護って」というネーミングがまず素晴らしい。ぜひ中高生に対してもっとこういう内容を話して欲しいと思う。介護は大事な仕事だ、という認識を広げていかないといけない。

◇A委員 下関市ではこういう会がなかなか無いため良い機会になればと考えている。

◇教員より 来年から同窓会の活動を本格化するため、こういう会をぜひお願いしたい。

◇教務主任より

先ほどのグループワークに関して、介護福祉士会から何名か職員の方に来ていただいて学生と交流して欲しい、ということは可能か？

◇A委員 大丈夫。山口県介護福祉士会に聞いてみていただけたら。

◇教員より 講師に来ていただいて講話していただくということであれば可能なのか？これに関する助成金の申請はおそらく間に合わないと思う。学生との交流は平日の昼になるが、大丈夫なのか。

ご迷惑をかけない程度でまた検討させていただきたい。

6. 各委員からの意見要望、その他

◇B委員 福祉の仕事は給料が安いのにきつい仕事だと思われがち。実際は人を助けているのだからかっこいい仕事なのだと伝えたい。人を引き付けるような介護の魅力が学校はじめ介護関係者から発信していただかないと今後の人材不足は深刻であろうと思う。

◇教員より 一部上場企業と比べると給料は低いかもしれないが、介護職に就いている卒業生の話ではけっこういい給料をもらっていると思う。

◇B委員 パートさんの実情をお伝えすると現実はやはりきびしい。気持ちとしては「これじゃいけない」と思っている。

※次回の委員会開催の日程は、3月を予定。